CIVIL ENGINEERING
EXHIBITION

過去から未来。新しいTOKYOへ。

TOKYO DOBOKU
FROM —1964— TO

ドボコレミュージアム
DOBOKU COLLECTION MUSEUM

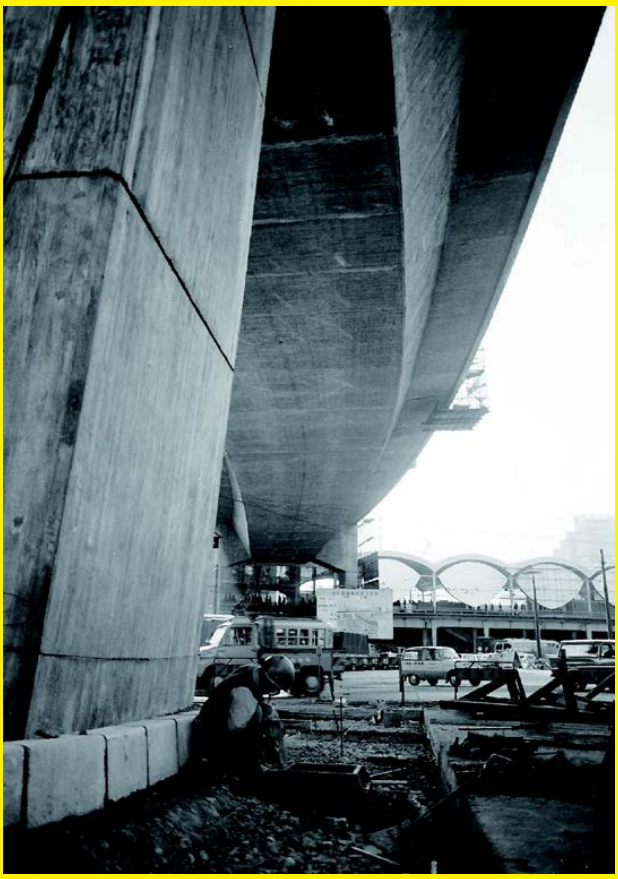
https://www.jsce-dcm.com/

公益社団法人 土木学会

ドボコレミュージアムでは、土木界が保有する、普段目にすることができない貴重な写真や図面、歴史資料の数々をweb空間上にバーチャルで展示・公開しています。
この展示では、日本で開催された2つのオリンピックを軸に、世界でも高い生活水準を誇る都市TOKYOを支えるインフラの魅力を社会背景とともにお伝えします。
過去から未来へと脈々と受け継がれてきた土木の蓄積とともに、変貌を遂げてきたTOKYOをぜひ実感してもらえれば幸いです。

「TOKYO」って、どんなイメージ?

安全で、便利で、快適。高い生活水準を誇る世界都市だと答える人は多いでしょう。でも昔からそうだったわけではありません。江戸城が明け渡された1868年の5年前、ロンドンでは地下鉄(The Tube)が開業していました。明治の文明開化を経て近代国家への仲間入りを目指してから150年。日本は地震や戦争、災害など、幾度となく迫る苦難に直面してきました。
しかし、そのたびに乗り越えてTOKYOは進化してきたのです。街を便利に楽しめる地下鉄、火災の延焼を防ぐ幅の広い道路、台風から身を守る安全な川、日本の経済を動かす高速道路や新幹線――。先人たちの努力の結晶が、今のTOKYOを形成しています。
そんなTOKYOで、1964年以来2度目となるオリンピックが2021年に開催されました。「TOKYO2020」です。熱狂に包まれたオリンピックを陰で支えたのが、社会基盤を意味するインフラストラクチャー(インフラ)でした。「インフラ」は皆さんの生活を24時間365日、支え続けています。存在が当たり前すぎて、普段は意識することもほとんどないのではないでしょうか?
異なる時代に造られたインフラが、実は綿密な計画の下でそれぞれ折り重なってTOKYOを機能させているのです。
ドボコレミュージアムでは、2つのオリンピックを軸に4つのパートに分けて、当時の社会背景とともにインフラの魅力をお伝えしています。


首都高3号線渋谷系前312工区

CHAPTER 01 イントロ/軌跡

TOKYOは一日にして成らず。1923年の関東大震災や1945年の東京大空襲を経て、現代に至るまで首都のインフラはどのような変遷をたどってきたのか。写真やインフラ整備の年表で振り返ります。

CHAPTER 02 戦前〜戦後/世界都市「TOKYO」の夜明け

近代国家にふさわしいインフラの基礎が出来上がる黎明(れいめい)期です。上下水道の整備が開始され、地下鉄・都電の開業や治水の推進など、TOKYOにおける本格的なインフラの整備が開始されました。幻に終わった1940年東京オリンピックについても図録・ポスターを交えて紹介しています。

CHAPTER 03 1964東京オリンピック前夜

一大イベントである「1964年」を前に、急ピッチでインフラ整備が進む時代です。首都高速道路や東海道新幹線、東京モノレール、羽田空港、地下鉄など、TOKYOを今も支える交通の屋台骨の多くは、この時代に完成しました。今も多くのインフラが現役で稼働しています。日本で2度目となるオリンピック「TOKYO2020」の各会場をつなぎ、開催期間に大きな渋滞を生じさせなかったのは、まさにこの時のインフラが大きな役目を果たしたためです。

CHAPTER 04 その後/TOKYO2020を経て次の世代へ

1964年のオリンピックの成功や高度経済成長期を経て、TOKYOがさらなる発展を遂げる時期です。爆発的に増えたのがインフラ整備でした。首都高速道路は網の目状に整備され、3環状の道路も着々とつながっていきます。そして世界的な祭典「TOKYO 2020」で大きな役目を果たしました。ただし、インフラの使命はまだ残っています。次世代に向けた安全・安心な社会の構築です。高齢化する既存のインフラの改良・更新や、皆さんの都市生活をより便利にする改造を急ピッチで行っています。